

ZUNDARE

2019

No. 04



ZUNDARE

Staff

- Editor-in-chief Jun Otsubo
- Deputy editor T.S
- Creative Director Miki Santoh
- Director/Photographer Takahiro Morimoto
- Photographer Hidemasa Yoshino
- Photographer Yuichi Umehara
- Writer FLASH SHIMADA
- Yuki Nagasawa
- Advisor Keishiro Tokudome
- cover HairMake Kanna Yamashita
- Haruka Nakashima
- cover 衣装協力 topocdress (@topocdress)

Index

- CoverGirl
- 04 Nao (bellona model agency)
- 08 Kuroda Yuki
- 10 WATANABE KIYOHISA
- 12 Saori (ハビロジュ)
- 14 Nakamura Keiichi
- 16 Hana
- 18 YOSHIYA IWANAGA
- 20 ZUNDARE ROAD
- 22 ZUNDARE 飯
- 24 ZUNDARE NOW
- 26 ZUNGIRL_ZUNMEN
- 28 1 LIMITED_WOK22

ズンダレ編集部
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 2-11-1 福岡 PARCO 新館 5F
TEL : 092-791-4085
mail : info@zundare.art



You should look as you like.



未来は知らない
令和元年のあたしが作品に残ってるくらい？



目標？夢？
ないっすね。

欲がないんですよ



CoverGirl
model Nao (bellona model agency)



モデルやってると良いことだらけ。

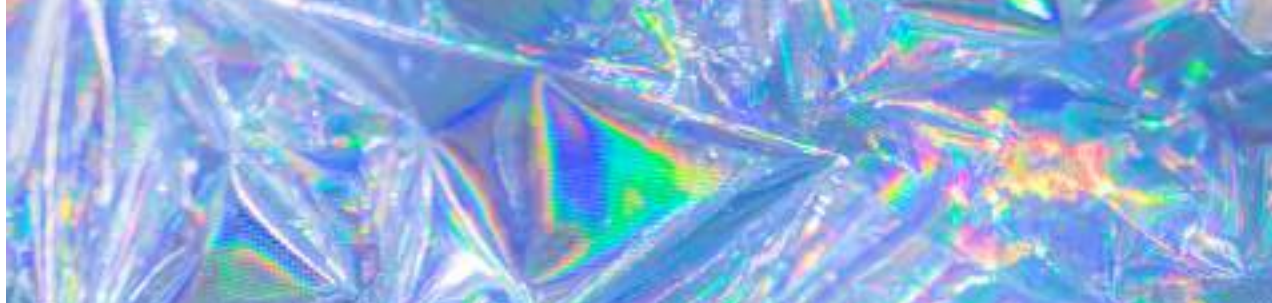
自分が作品として形に残るのは嬉しい。

新しい出会いがたくさんあって、

憧れの人と仕事できたときは最高だった！

服もらえたり打ち上げがタダなのはラッキー（笑）

LUCKY



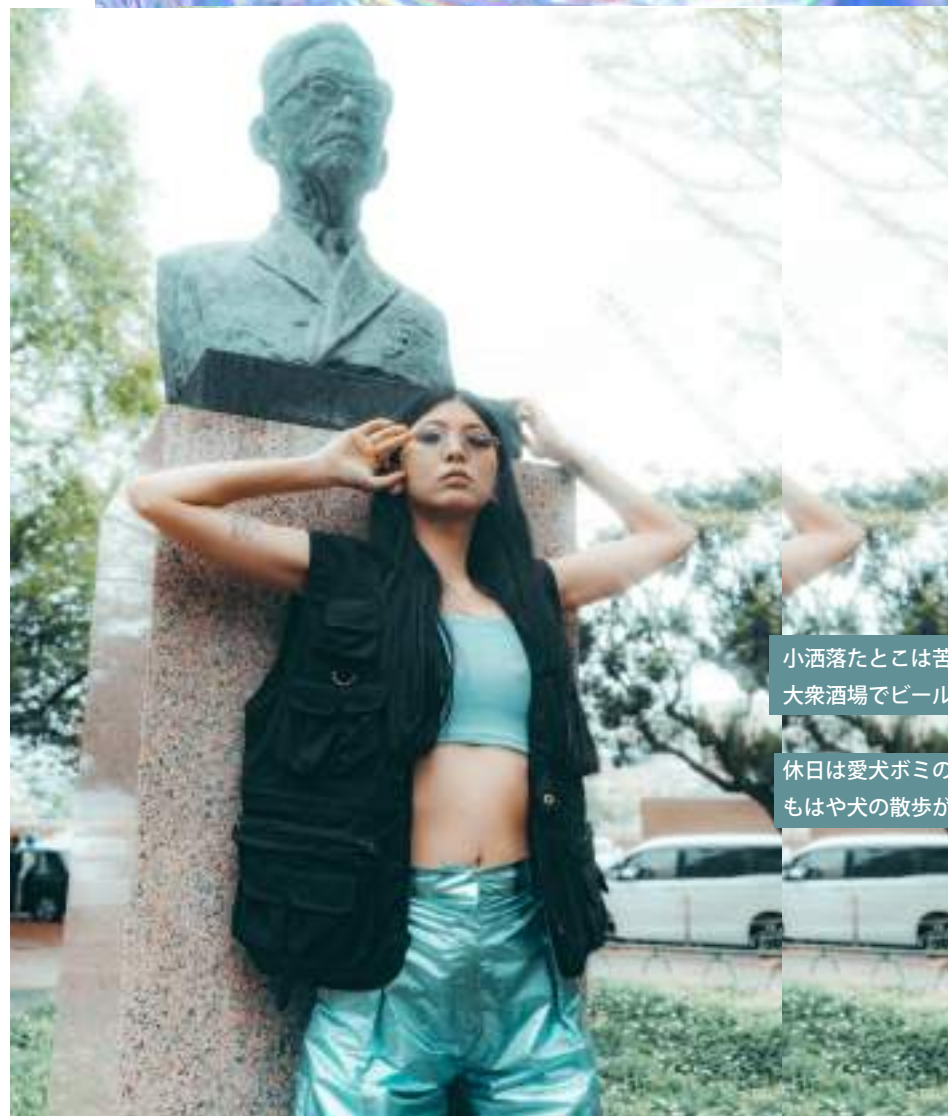
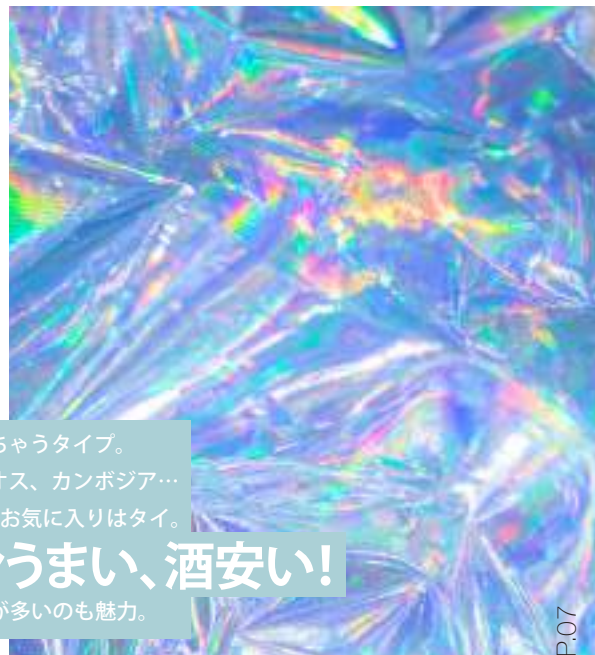
食事はあんまり気をつけてないかも。
運動は、普通のジムじゃ物足りないと思って、
キックボクシング！
もともと格闘技観るのが好きで。
人殴るってめったに見れないじゃないですか。
気持ちいいっすね～



一人で海外行けちゃうタイプ。
香港、台湾、ラオス、カンボジア…
色々行ったけど、お気に入りはい。タイ。

天気いい、メシうまい、酒安い！

カラフルなものが多いのも魅力。



小洒落たところは苦手。
大衆酒場でビールと焼酎がベスト。

休日は愛犬ボミの散歩。
もはや犬の散歩が趣味。

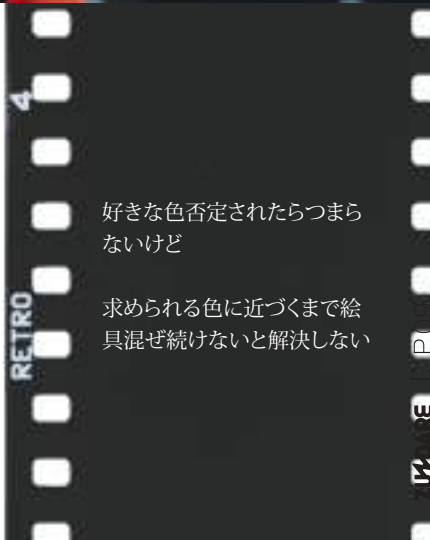




Movie Creator VI

黒田 友基

僕の営業時間は夜10時から朝10時



好きな色否定されたらつまらないけど

求められる色に近づくまで絵具混ぜ続けないと解決しない

4

RETRO



生まれたときからつきまとい予告なしに現れては視界を遮られる。息も苦しいし、寝込むほどの頭痛と吐き気まで置いていく。たまには良いように利用させてもらおう。先回りしとくから、おまえが来たら一休みしてもいいや。



撮りたいものが見つかるなら
極寒の山中でも追いかけてたい



代表取締役

渡辺 清久

目離した際に増殖するなまけ心との戦い



振り向いたら何か変わってたぐらいでいい

ありふれたものに、ひとつまみ **スパイス** 足した
ありそうでなかったもの



パピロジェ / Saori

Idol 書道家

表と裏、同時に描くなんてムリ、1ページにこだわってわたしを表現する



玄関飛び出して、海を越えてスポットライト浴びたい





ちょっと**明日**から**カナダ**で**肉焼**いてくる

仕事終わりにサクッと
天神とか博多でBBQできたら
楽しいんじゃない？



これに命かけるとか、これで食べていこうとか、全然思ってたかった。
起業する人って何かしら準備すると思うんだけど
僕は福岡に顧客も道具も何にもなかった。
やりたいからやっちゃった。



焼師
中村 圭一

時間がないとか金がないとか
やらない理由を正当化してい
た過去。
初めて海外留学を決めたとき、
その殻を破れた気がする。
絶対ムリだと思っていたことが
やってみたら実はたいしたこと
なかった。

Dancer

HANA

中身までお洒落したら踊りにウソついちゃうよ

東京はまるで新しい衣装
まだうまく着こなせないけど
鏡に映る自分は昨日よりちょっとかっこいい

世界を股にかける **Lock** 女子

のっかって生きるのはもう終わり
女でもアジアを超えて
ここまでやれんだぞって
わたしの手で証明する

「天カス」？
ちよつと、そのセリフ…
聞き捨てなりませんねえ。

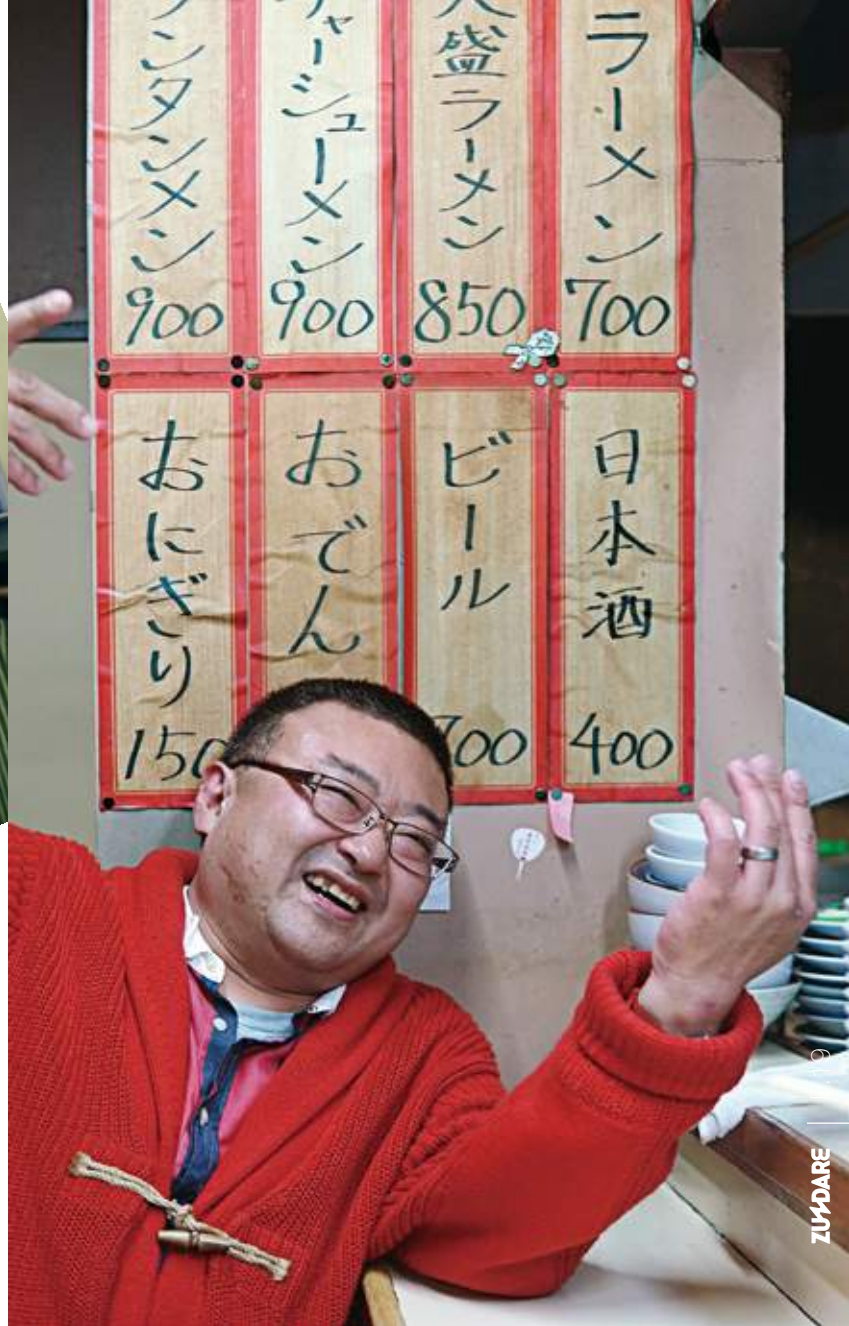
「揚げ玉」
ですよ、お客さん。

でもこの後…

私がカスに
なるんですけどね…



「ちゃん八」の一番奥が、
終着駅の Cockpit。



天ぶら屋店主
岩永佳也 [清川] 天ぶら 岩永



ZUYDARE Road

#04 『舞鶴・昭和うら通り』

舞鶴一丁目というと、
言わずと知れた福岡の若者文化を見続けてきた場所であり、
その象徴が親不孝通りである。
一般的にはそこばかりが目立っているが、
一本裏路地に入ると、実は流行りに左右される事なく長年続いてる
銘店が点在する場所でもあるのだ・・・。



手塩にかけたその一串が
今宵も酔い酔いと
殿方様たちの食道へと嫁いでいく



神の啓示が授けてくれた、
限らないホルモン愛。

ZUNDARE #03 飯



此乃美
福岡市中央区舞鶴1-3-5
電:092-732-8241
営:18:00~翌1:00
休:不定休

その銘店の一つがこの串ホルモン屋「此乃美」。7年前に先代から受け継ぎ、その伝統を守りながらも独自の進化を続けているホルモン料理の専門店である。 遡る事バブル絶頂期、この界隈で此乃美グループを形成し、情緒豊かに発展を遂げていた先代のオーナーはその後訪れた不況の波を持ち前のセンスと経営手腕で乗り切ったものの、てっぺんを極め情熱を失う。そこに現れたのが現在の女将だ。 きっかけは後継者の相談に乗っていた、現在西新店の責任者である女将のパートナーからの依頼でたままバイトに入った時の事。当時2人の間には第一子が産まれたばかりでそれどころではなかったが、昔からずっとお世話になっていた飲食業の同僚からの頼みということもあり渋々バイトに入ったという。ところが…それが彼女にとって正に運命的な出会いとなったのだ。このカウンターに入りぐるっと見回した瞬間、ここが自分のこれからの人生全てを捧げる場所で、それを直感で'83歳まで続けるんだ、という使命感に駆られたという。これぞまさに「神の啓示」。

それから6年。今でも毎日、仕込みからホルモンのその一本一串を我が子のように労り育み、どんなに話に夢中になっても優しくスープをかけるその手は止まらない。それはもう、母親の愛情に他ならない。

そんな愛と魂が宿った奉仕の真髓が、中庭の緑が鮮明に映る癒しの空間で小粋なアテたちと共に今宵の宴を彩る。 愛し愛され、食い吞まれ。相思相愛の愛弟子たちを携えて、此乃美と女将のホルモン酒場の旅は続いていく。その航路は遙かイスカンダルまでの彷徨の如く…。 成れば解るさ、83歳のおばあちゃん。





Zundare Now
photo by Mao Otsuka

ZUNDARE magazine 発刊 party

**ZUNDARE
NIGHT**



twitter



instagram



決 6月28日 開催!
PARCO@kawara CAFE&DINING FORWARD



ZUN GIRL

TSUJI KATSUMA

Twitter: moon_ss33

やればやるだけ自身と結果がついてくる

面白いことを発信していくのでついてきてください

NANAKO SAWAGUCHI

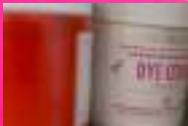
SNS_@sawanana

ZUN MEN



THMITED is
 GRAFICARTIST / PAINTER
WOK22

[WOK22]ライブペイントをしたのをきっかけに活動をはじめ、平行してグラフィック要素とイラストやライブペイント作品とのつながりを持った作品を制作。雲や蜃の足のモチーフを好んで描いており、自分の頭の中にあるポップでダークな部分を、様々な手法で表現する。
 P28写真:アトリエにて/P30写真:2019.5.11-12@舞鶴公園にて開催されたイベント「GLASSY」でのライブペインティングの模様/P31写真:ライブペインティングで描いたグラフィックを元にZUNDARE掲載用にデジタルで作品をアレンジ。タイトルはアナログペイントとデジタルが交差することを表して「cross」。Instagram:wok22



ZSHOT
GOJA BKK

ZSHOT
GO

L
L
F
I



W
K
K



WOK22 x AVGS
MILAXFU

The imagination is more important than knowledge.
Knowledge is limited, but the world is wrapped in an imagination.

ZUNDARE

2019

No. 04

